

藤沢市教育委員会 7 月定例会会議録

日 時 2014 年（平成 26 年）7 月 31 日（木）
午後 1 時 30 分
場 所 市民会館 1 階 第 2 展示集会ホール

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の決定
- 3 前回会議録の確認
- 4 議 事
 - (1) 議案第 1 3 号 平成 27 年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択について
 - (2) 議案第 1 4 号 平成 27 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について
 - (3) 議案第 1 5 号 平成 27 年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について
- 5 閉 会

出席委員

1 番 吉 田 早 苗
2 番 赤 見 恵 司
3 番 阪 井 祐 基 子
4 番 関 野 真 一 郎
5 番 井 上 公 基

出席事務局職員

教育次長	渡 部 敏 夫	教育部長	吉 田 正 彦
教育部参事	小 林 誠 二	教育部参事	杉 山 哲 己
教育部参事	村 上 孝 行	教育部参事	神 尾 友 美
教育指導課長	小 木 曾 貴 洋	学校施設課長	佐 藤 謙 一
教育総務課主幹	佐 藤 繁	教育指導課主幹	松 原 保
学校教育企画課指導主事	藤 内 美 穂	教育指導課指導主事	亀 本 淳 夫
教育指導課指導主事	川 邊 尚 子	教育指導課指導主事	北 野 博 三
教育指導課指導主事	窪 島 義 浩	教育指導課指導主事	佐々木 貴
教育指導課指導主事	瀧 谷 典 子	教育指導課指導主事	坪 谷 麻 貴
教育指導課指導主事	新 岡 由 紀	教育指導課指導主事	町 田 一 郎
教育指導課指導主事	吉 崎 緑		
書 記	西 山 勝 弘		

午後1時30分 開会

井上委員長

ただいまから藤沢市教育委員会7月定例会を開会いたします。

会議の開催にあたり、藤沢市教育委員会傍聴規則第6条第4項にあり
ます写真撮影につきまして、報道機関から事前に申請がありましたので、
これを許可することといたします。(報道機関写真撮影)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

井上委員長

それでは、会議録署名委員を決定いたします。本日の会議録に署名する
委員は、1番・吉田委員、4番・関野委員にお願いしたいと思いますが、
ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長

それでは、本日の会議録に署名する委員は、1番・吉田委員、4番・
関野委員にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

井上委員長

続きまして、前回会議録の確認をいたします。

何かありますか。

井上委員長

特にないようですので、このとおり了承することにご異議ありません
か。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長

それでは、このとおり了承することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

井上委員長

これより議事に入ります。

議案第13号平成27年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択につ
いてを上程いたします。事務局の説明を求めます。

小木曾教育指導課長

議案第13号平成27年度使用藤沢市立小学校用教科用図書の採択
について、ご説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、小学校用教科用図書の採択につつま
しては、法令により、義務教育教科用図書は、基本的には採択替えを行っ
た時点より4年間は同じ発行業者のものを採択することになっています。
小学校の教科用図書につきましては、平成27年度が採択替えの年度にあ
たっておりますので、採択替えを行うものです。

平成27年度使用藤沢市教科用図書の採択方針に基づき、採択する教科
用図書につきましては、採択日程に沿って、展示の実施、各小学校長によ
る調査研究、審議委員及び調査員の委嘱又は任命、教育委員長による審議
委員長への諮問を経て、第2回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきま
して、小学校用教科用図書の審議を行い、その会議録をもって答申とする
ことが承認されております。なお、7月24日に藤沢市教科用図書採択審

議委員会委員長から教育委員会委員長あて「平成 27 年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について」答申されました。教科用図書審議委員会から答申された内容については、「平成 27 年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）」とあるものです。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

井上委員長

事務局の説明が終わりました。平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択につきましては、法令により、義務教育教科用図書は、基本的には採択替えを行った時点より 4 年間は同じ発行者のものを採用することになっています。小学校の教科用図書の採択につきましては、本年度は、平成 27 年度から小学校において使用される教科用図書について、教科書目録の中から 1 種目ごと 1 発行業者のものを協議の上、採択することとなります。藤沢市教科用図書採択審議委員会からも、1 種目ごと 1 発行業者のものを審議した結果が答申されています。

それでは、これから平成 27 年度使用小学校用教科用図書の協議をしてまいります。協議に入ります前に、私たち教育委員が採択に当たり、調査研究をするのに参考とした資料をご説明いたします。

はじめに、「小学校学習指導要領」です。これは文部科学省が作成し、学校の教育課程を編成する上で、また、教科書編集の根幹に当たる資料です。

次に、「教科書編集趣意書」です。これは、文部科学省が教科書発行者に作成を指示したもので、各種目の教科書を編集するに当たっての趣意をまとめたものです。

次に、県より報告されました「小学校用 教科用図書調査研究の結果」です。これは県の教科書選定審議委員会のもとにおかれた専門調査委員会が調査研究した結果で、教科書選定審議委員会を経まして、県教育委員会から本市教育委員会へと送付されたものです。

次に、本市教科用図書採択審議委員会のもとにおかれた調査員によって作成された「小学校用（平成 27・28・29・30 年度用）調査資料」です。これは、県の通知及び審議委員会の方針を受けまして、学校教育に十分な経験と知識を有する者のうちから、教育長が調査員として各種目 3 ないし 6 名を任命し、調査研究をした結果をまとめたものです。

次に、「平成 27 年度使用教科用図書調査書」です。これは各小学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各小学校長に責任のもと、県の調査研究の観点に沿って、9 項目の観点ごとに調査研究したものです。

次に、「平成 27 年度使用教科用図書意見書」です。これは保護者及び市民向けに、各小学校及び藤沢郵便局において、教科書展示会を開催した際

にいただいた意見、感想です。

また、要望書についても委員それぞれが目を通しております。

私たち教育委員は、教科書見本の内容を研究するとともに、ただいま説明いたしました資料の研究、藤沢市教科用図書採択審議委員会を傍聴し、同委員会の答申を参考に調査研究を進めてまいりました。

参考とした資料及び内容は以上でございます。

それでは、協議に入ります。

協議方法について、私から提案をさせていただきます。協議方法については、私たちが調査研究する際に使用した資料の中から、県教育委員会から報告された「小学校用 教科用図書調査研究の結果」の5観点、小学校長による「平成27年度使用教科用図書調査書」の9観点、市の調査員がまとめた「小学校（平成27・28・29・30年度用）調査資料」の3観点、を参考にし、加えて、藤沢市教科用図書採択審議委員会の答申で審議された観点別のご意見を踏まえ、この場では4つの観点、1. 学習指導要領との関連（編集の趣旨と工夫）、2. 内容（教科・種目別の観点）、3. 構成・分量・装丁・表記・表現、4. 本市の児童の実態や地域等の特性との関連、を軸として、それぞれの観点について協議し、種目ごとに意見を出し合い、最終的に合議により決定するというものでいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

井上委員長

それでは、そのように進めさせていただきます。

XX

はじめに、「国語」から協議を始めます。発行業者は5者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版です。ご意見をお願いいたします。

赤見委員

児童が読書活動に親しむという観点で2者についてお話させていただきます。学校図書ですが、1年生の初めの部分が、まるで絵本のように入りやすい導入で、物語の挿絵も2年生の「かさこ地蔵」や5年生の「注文の多い料理店」で非常にわかりやすく大きい挿絵が多く、親しみやすい文章だったと思います。

光村図書出版でも挿絵の大きさやバランスは非常によく、3年生では滝平二郎氏の挿絵や、6年生の古典の「鳥獣戯画」の挿絵はとてもすばらしかったように思います。また、全出版者に掲載されていた「大造じいさんとガン」では、光村図書出版だけが原文にもともとある前書きが載っていて、物語のイメージがより鮮明になると思いましたが、挿絵が非常にわかりやすかったと思います。

関野委員

私は国語の教科書は光村図書出版がいいと思いました。全体的に読む、

話す、聞くなどのアイコンがとてもうまく配置されていて、他の教科書に比べて子どもたちが、この単元でどのような勉強をするかというのがわかりやすく表記されているなどと思いました。また、アイコンの下にそれぞれどのように取り組むのかという目的が明確に表記されていて、非常にわかりやすい構成になっていると思います。各単元のポイントとなる部分には「たいせつ」というくくりでうまくまとめられていて、子どもたちの理解の手助けになると思いました。光村図書出版の写真、挿絵、イラストなども子どもたちが入り込みやすいようなイメージで、とてもいい印象を持ちました。また、本の紹介なども単元ごとに少しずつ掲載されていて、子どもたちのペースに合わせた分量を紹介して、1年間の授業の進みぐあいに合わせて、子どもたちが読書に対する意識も高めやすいのではないかと思います。

阪井委員

私は今、幼稚園や保育園から小学校に入学してくる入門期の子どもをどのように学校生活になじませるか、また、学習に向かわせるかということは大きな問題になっていると思います。その観点から見まして、光村図書出版の入門期の扱いは1年生を学びの入門期ととらえ、小学校生活に慣れるように言葉や友達や先生と触れ合う教材から始まり、関野委員もおっしゃったように、話すこと、聞くこと、書くことが系統的に学習できるように編集されていると思いました。また、読書については、教材ごとに関連図書が紹介されていますし、「本はともだち」というコーナーでは、1年生では「おはなしカード」、2年生では「おはなしのクイズ」、3年生では「本を使って調べる」と、段階を踏んで本に親しめるような工夫がされているように思いました。「この本をよもう」では多くの本が紹介され、読みたい本が見つかるだろうと感じました。また、民話や昔話は、聞いて楽しむ、読み聞かせの教材となっていて、日本文化の豊かさや幅広さを感じ取れると思いました。また、挿絵やグラフや写真なども配慮されているように思いました。

6年生の「中学校に向けて」ですけれども、光村図書では「かなえられた願い」というアメリカ人のドナルド・キーンさん、日本に帰化されていますけれども、「日本人になること」ということで日本の皆さんへのメッセージとして、外国の方から日本を見て、日本のすばらしさを書いている文章が載っていることも、子どもたちが日本に誇りを持つのではないかと感じました。そういうことから光村図書出版がいいのではないかと思います。

吉田委員

最初に国語科というよりも、先ほど委員長が4観点のお話をされましたが、それにこういう視点で選びましたということをつけ加えさせていただきます。

くと、本市の児童生徒が思考力、判断力を養って、その力をもとにして表現力を養っていく、培っていく。そして主体的に学ぶという姿勢、お互いにコミュニケーションを図っていくような教科書が選べるといいと思ったことが1つ。もう1つは、どの教科書を選んでもどのように使うかということが課題ではないかと思しますので、これは教育長として先生方へのお願いになりますけれども、ぜひ小学校の場合は1教科にとどまることなく、全教科、特に自分が持たれている学年で何を学ぶかということを熟知された上で、保育園、幼稚園、それから中学校につながる観点を持って、今、担当している子どもたちにどのような授業、どのような力を培っていくための授業ができるかということを、教科書を通して考えていただきたいと思っています。

そして国語についてですけれども、国語科は先ほど申し上げたコミュニケーション能力を培う上では一番重要な教科ではないかと思し、国語科で身につけた言葉の力が、すべての言語活動の力になっていくように思います。そこで3者について述べたいと思います。

まず東京書籍ですけれども、2年生以上の学年の初めに、「国語の学習を進めよう」というのがありまして、つかむ、取り組む、振り返る、広げるという流れに沿って国語を学んでいくことというのが明示されていると思います。このように流れが明示されていることは、基礎、基本の修得がしやすくて、身につけた力を子どもたちが活用するために多様な単元のねらいが組み込まれているように感じました。単元の冒頭には必ずねらいがあり、具体的にそれが記されておりますし、単元の終わりには言葉の力があって、読む際のポイントを示していると思います。その他にも言葉の広場、漢字の練習、読書活動の充実などがあって、多様に言語活動ができるように構成されていると思いました。

見開きの「本のひろば」については、読書情報が豊富で、「本はともだち」（やなせたかし）といった子どもたちもよく知っている著名人の言葉があることも、子どもたちに言葉を喚起するのに有効だと思いました。また、「にほんのことは」「にほんごのしらべ」といったことで日本語を大切にする思いにつながるように感じました。

次に、学校図書ですけれども、学びの交流を大切にしているなど感じました。学年の初めに、学級づくりのページが設定されていて、とても小学校の基礎となる学級、母体となる学級において言語活動をしていく上で重要なことと感じました。2年生の「心のスピーチ」、3年生の「学びのおしえっこ」、4年生「つなげて遠く」、6年生「プラス志向でアドバイス」といったように、コミュニケーション能力を高めるためにはどうしたらよ

いかということが考えられるような工夫がなされておりました。それから「読むレッスン」というのがありまして、それは本文を読み進めるための予備知識として、子どもたちが読もうと思うようなつくりになっていると感じました。

光村図書出版は、「さあ はじめよう」という1年生のスタートセットが大変わかりやすいと思いました。先ほど阪井委員もおっしゃっていましたが、入門期が一番大事と感じておりますので、1年生の始まりがそのイラストから想像が大変しやすい状況になっていたり、言語活動につながる、話してみたいくなるようなページの構成になっているなど感じています。学年の巻頭には「学習を見渡そう」があつて、各領域の目標がしっかりと書かれている点もいいなと思いました。

言語活動では、言葉の習得のための「言葉の準備運動」というところにアイスブレイキングというのがありました。言葉で人間関係を円滑にする手立てとしてコミュニケーションコラム、これは本当に有効ではないかと思えます。読書活動についても「本はともだち」というコーナーを設けて、3段階のステップで読書活動を行おうとなつていまして、これもステップがわかりやすく、子どもたちが読書にいそしむのに良いのではないかと感じました。

また、情感を育む季節の言葉というのも学年の違いを考慮して、繰り返し、繰り返しそういったことをやっていくことによって、確実に定着が図れるのではないかと感じました。

井上委員長

各委員から意見をいただきました。国語は自分の考えをまとめることで力がつくと思えます。話す、聞く、読む、これが確実に身につくようなことが必要になってくるだろうと思われまふ。それぞれの発行者者にいいところもございますけれども、ただいま意見を出していただきましたけれども、他につけ加えたいこと等がありますか。

赤見委員

光村図書出版について、つけ加えさせていただきたいと思えます。学習では振り返りの学習が大切だと考えておりますが、光村図書出版は巻末に「たいせつ」のまとめ欄がありまして、それが有効なのかなと思えました。また、掲載されている物語も「わらぐつの中の神様」とか「カレーライス」とか非常に味わいの深い作品が取り上げられていていいと思えました。

言語力の育成という点で、「季節の言葉」というページが日本古来の言葉が美しい写真や絵とともに紹介されていて、とても言語力の育成という観点でよろしいかなと思えました。

井上委員長

光村図書出版がどうだろうかということも含めてご意見をいただきましたけれども、他にございますか。

吉田委員 先ほど3者について意見を述べましたけれども、光村図書出版に関しては、前回採択された教科書と見比べてみましたけれども、入門期の工夫がよくされていて、教科書のコンセプトがさらに明確になったかなと思いますし、各領域がバランスよく学べるように柔軟につくられていて、大変使いやすいのではないかという印象を持ちました。

井上委員長 いろいろな視点からご意見をいただきましたので、集約いたしますと、国語は光村図書出版ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「国語」は「光村図書出版」にいたします。

×××

続いて、「書写」についてです。発行業者は6者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版、日本文教出版です。ご意見をお願いいたします。

関野委員 書写は2者についてお話いたします。1つは教育出版です。各者それぞれあるのですが、1年生で一番最初に字を書くところで、字を書く姿勢と鉛筆の持ち方の表記が、教育出版は他者と比べて見やすく、わかりやすく描かれているなという印象を持ちました。また、3年生からの毛筆の部分でも同様に、筆への力の入れぐあいと説明文とイラストで、イメージしやすい工夫がされていると思います。また、「考えよう ここが大切 活かそう 振り返ろう」などのマークがわかりやすく記載がされていて、子どもたちもわかりやすいフローで学習が進められていけるように感じました。

光村図書出版も大変工夫がされていて、特に手紙、はがき、ポスターや新聞が、学校活動、また私生活などでも頻繁に使われるようなものが見本が多く掲載されていて、良かったと思いました。

吉田委員 6者ともそれぞれ工夫がありますが、2者についてお話させていただきます。まず教育出版です。巻頭の見開きのページや文字の活動へいざなうという意味では大変いいと思いました。それから「トライ アンド チャレンジ」というコーナーは、実生活に密着しているというところでとてもいいと思いました。また、同じような意見になってしまいますが、鉛筆の持ち方がとても丁寧に書かれておりますし、毛筆についても学習が始まる3年生で楽しさを表現して、子どもたちのやる気を喚起しているように思いました。「穂先の通り道」が明確でわかりやすいというようなことや、「考えよう ここは大切 活かそう 振り返ろう」というように、わかりやすい言葉やマークで示されているので、理解しやすく確実に修得につながるように感じました。

光村図書出版ですが、イラストやキャラクターが多くあって、これは大変親しみやすいかと思います。「たいせつ」で説明している穂先の向きと軸の向きが見開きで書いてありまして、これは大変見やすく、わかりやすいかと思います。それから小筆の持ち方も入っていて、なかなか小筆は使いにくいのですが、そういう点ではいいのではないかと思います。硬筆においては、教科書に直接書き込む練習部分というのが非常に多く、練習帳としての活用もできるかと思います。実用的な部分で言うと、見開きで手紙の書き方を掲載してあったり、それも縦書きであったり、横書きであったりと実生活に密着していくのではないかと思います。

阪井委員

どの教科書もそれぞれに工夫がされていて、子どもたちが書くことが楽しくなるような教科書だと思いました。その中で私は光村図書出版について、お話をさせていただきます。1年生の硬筆の書き方の中で、ひらがな表が扉にあるので、いつでも見て確認しやすくなっています。文字を書き始めた子どもたちが見やすいというのは、とてもいい工夫がされているように感じました。また、毛筆についても穂先の動きや幅など色づけや矢印を使うことによって、書き方がわかりやすくなっていたと思います。また、ポイントは朱色にしてあって、それもわかりやすくなっていると感じました。單元ごとに振り返りをし、自己評価ができるようになっているのも自分なりに自習ができる取り組みだと思います。

また、資料のページには新聞やノートの縦書き、横書き、絵はがき、エメール、原稿用紙などの書き方が載っていて、さまざまな書き方を学べる教科書だと思いました。

赤見委員

各者見させていただいたのですが、東京書籍と日本文教出版がA B版で、本を置きながら書くには少し机が狭いかなと思いました。内容に関してですが、2者とも書写の際の姿勢、筆の持ち方はそれぞれ解説しているけれども、日本文教出版が写真入りで特にわかりやすいと感じました。形からきちんと教えていい字を書くという観点からはよろしいかなと思いました。また、硬筆や毛筆の文字が非常に大きくて見やすく、練習がしやすいのかなと思いました。また、墨や筆の原料や作り方も各者紹介されているけれども、日本文教出版が一番詳しく紹介されていて、道具を大事にする気持ちが養われるのではないかと思います。巻末には漢字の書き順がすべてわかる漢字表があり、学びがしっかりできるのではないかと思います。

光村図書出版ですけれども、全体にすっきりとした構成で直接書き込み部分が多く、学習帳としての性格もあって使いやすいのかなと、また、大事なポイント、字の角の部分とかをうまくキャラクターを使ってクローズ

アップされて書くことが示されていて、自然と好きになる構成になっていると思いました。

井上委員長 教育出版、東京書籍、光村図書出版、日本文教出版といろいろな意見が出ておりますけれども、他にご意見がありますか。

吉田委員 先ほど教育出版と光村図書出版のお話をいたしました。今、赤見委員がおっしゃったように、光村図書出版は大変ゆとりがある構成で、すっきりしているという印象を受けます。そしてすっきりしているだけに文字が大きく見えるということが、子どもにとってはよいのではないかと思います。すっきりしているわりには大変資料が豊富で、学年に応じてコミュニケーションのツールとしてのはがきの書き方、それからよく使うことになる原稿用紙の書き方、5～6年生で情報とかかわってくる新聞の書き方が例示をされていて、そこで学んだ技術が実生活に生かせるのではないかと、そういう例示がたくさんあると感じております。

井上委員長 私も光村図書出版について、説明させていただきます。今おっしゃった資料が豊富ということ、手紙とかはがき、新聞の書き方というようなものがよくまとめられているなど感じました。生活に役立つということも重要なポイントかなと思っています。特に6年生のはがきの書き方には、今までの学習を活かして書くということ、絵はがきとかエメールといったものまで取り込んでいるということで、光村図書出版はよろしいかと感じております。

井上委員長 今、皆様のご意見を聞きますと、書写については各者いいところもあるけれども、おしなべて光村図書出版が適切ではないかというご意見かと思っておりますけれども、書写は光村図書出版でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「書写」は「光村図書出版」といたします。
×××

続いて、「社会」についてです。発行業者は4者、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版です。ご意見をお願いいたします。

関野委員 私は教育出版がいいのかなと思っています。各者とも資料や写真、イラストなど非常に効果的に使用していて、子どもたちが興味を持つことができるような構成になっていると思います。その中でも教育出版の教科書は單元ごとのポイントとなるような投げかけを子どものイラストに吹き出しをつけて、子どもたちが気づきやすいような工夫がされていると感じました。また、事例や資料などに神奈川県、また、横浜市などが多く取り上げられていて、とても子どもたちが身近に感じるができると思いました。特に、3～4年生の水の流れに関する單元では、相模湖、相模川、寒

川の浄水場などが取り上げられていて、藤沢の子どもたちが社会という教科に対して、身近なところが載っているということで興味を持って取り組むことができる教科書かなと思いました。

もう1つ、藤沢の子どもたちにぜひ知っておいてほしいのは、小笠原東陽の記載が教育出版にありましたので、ぜひ小笠原東陽の存在を知っていただいて、自分たちの育った地域に誇りが持てるような学習が教育出版の教科書ではできると思いました。

阪井委員

社会科の教科書は4者を読ませていただきましたけれども、私は教育出版についてお話をさせていただきます。社会科は問題を発見してその中のつかむ、そして調べる、調べたことをまとめてみて発表する、そして自己理解を深めるというような学習の流れかと思えます。そのような工夫がされている教科書が教育出版ではないかと思いました。学びの手引き、わくわく社会科ガイドなどで資料の活用方法や調べ方を理解できるようになるのもよいと思いました。また、関野委員のおっしゃった藤沢市の耕余塾について、小笠原東陽先生についても扱われていることから、郷土愛を育むことができるのではないかと思います。

また、藤沢市の小学校の子どもたちは5年生になると、八ヶ岳野外体験教室に行きますことから、野辺山の野菜づくりが5年生の上巻の方に記載されています。実際に行くところが教科書にありますので、学びが深められるのではないかと思います。

吉田委員

社会科は4者ですけれども、私の見る観点は、社会は3年生については自分の市を学ぶ、自分のまちを軸にして学んでいるというようなことを考えると、教科書を使って何を学ぶかということ、学び方を学ぶのかなというふうに思います。したがって、その学び方が学べるもの、資料をどのように活用したらいいのか、そういったことができる教科書がいいと思いましたが、体験や話し合い活動を通して自分の意見をしっかり持てるような子どもたちに育つための教科書がいいと思いました。

それから5～6年生に関しては、実際に日本の全土を見たり、世界に触れたりというグローバルな視点も必要になってきますし、このところ言われています健康、安全、自然災害、情報、我が国の歴史、文化といったことに自分がかかわっていくことによって、自分も社会の一員としてどんなことができるかということを考えるための教科書であってほしいと思いました。

そこで2者についてお話をさせていただきます。1者目は東京書籍です。阪井委員がおっしゃっていたように、社会科の学習を進めるに当たってのつかむ、調べる、まとめる、活かすといったような過程を経ることで、見

通しを持って問題解決に当たることができるような構成になっていると思います。先ほど申し上げた3年生が主体的に社会科に関われるようになるには、そういった問題を自分で考えて、それを解決していこうという手立てが見えるものがないのではないかと思います。「学び方コーナー」というのがありまして、そこでしっかり整理ができると思います。イラストが大変多く使われていますし、見開きのイラストが大変大きくて、子どもたちの想像力を喚起するのではないかと思います。資料も大変豊富で、4年生以上の教科書には「東日本大震災の様子」というのが提示されておりまして、5年生では情報との関係、6年生では震災の復興と政治について考えさせるようにしているコーナーがございました。6年生の「歴史の入門」では、扉に12枚の写真があつて、年表に見方が詳しく載っていたり、年中行事の絵巻が付いていて、京都の祭の図もあつたり、身近で感じられる日本の行事みたいなものも子どもたちの中にずっと入っていくのではないかと思います。それからそれぞれのところの各種イラストで時代を表現して、その時代を考える資料として活用できる、広げるというコーナーは、エピソードを紹介して歴史への興味を深めるのにいいのではないかと思います。

それから教育出版ですけれども、同じように学習の過程としては、つかむ、調べる、まとめる、深めるというのがありまして、特に深めるという場面では話し合い活動を重視していると感じました。3～4年生の「わたしたちの町から市へ」という学習において、自分たちの市の様子をどのように調べていけばいいのか、また、どのように広げていけばいいのかを自然にわかるように構成されていて、実際に自分の市を調べていくのに便利なのではないかと思います。教科書では横浜市が扱われていますけれども、子どもたちがその横浜市を例にとって、藤沢市をどのように学ぶかということが大変よくわかる、学び方がわかる教科書ではないと感じました。

5年生の「情報」の単元で東日本大震災の情報伝達の様子が学べます。6年生の「歴史」においては、年表が見開きで大変大きく、人々の動きの様子の記入があつて、歴史を身近なものとして感じられるのではないかと思います。年表は、一覧表になっている年表だけではなくて、教科書の中にもあつて、どの時代を今、学んでいるかを理解できる、わかりやすい教科書だと感じました。

赤見委員

本市との関連ということで、教育出版は耕余塾及び南牧村の暮らし人が掲載されていていいと思いました。光村図書出版ですけれども、4年の「わたしたちの県」では、神奈川県が取り上げられていまして、江の島も紹介されていました。また、光村図書出版の特色として単元の最初が見開きで、

どがうまく組み込まれていて、情報量が多く資料としての価値は非常に高いと思います。また、地図の色合いですけれども、高低差による色のコントラストがよくできていて、非常に見やすいと思いました。また、世界地図のコーナーでは、日本の大きさと緯度が比較できるように、アメリカ大陸やヨーロッパ大陸の横に移動して掲載しているのもなかなか面白い工夫だなと思いました。また、自然災害の観点からもプレートと主な地震の震源地がしっかり取り上げられていて、これも防災教育という意味で役に立つのかなと感じました。

関野委員

東京書籍についてお話をさせていただきます。東京書籍の地図帳はA4版でサイズが大きく、その分掲載されている地図も大きく見やすく、使いやすいなと感じました。また、イラストや吹き出しなど単なる地図帳という感じではなくて、4年生になって子どもたちが初めて地図帳として興味を持って手に取ることができるような工夫が多くされているように感じます。また、統計資料なども表が行ごとに交互に色がついていて、視認性がとても高く見やすいと思いました。地図の中にも特産品などのイラストが散りばめられていて、その土地の特徴などがわかりやすく、子どもたちにとっては見ているだけでも楽しめる地図帳に仕上がっていると思いました。

阪井委員

両方の地図を比べながらお話をさせていただきたいと思います。両者の地図はどちらも入門をする4年生にとっては、地図をどのように使うのか、その場所をどのように探すのかということが詳しく書かれているように思いました。4年生で最初に習う各都道府県の位置や名前を見るときに、帝国書院は白地図にしてあって学んでいける、イラストと関連できるようなつくりになっていました。片や東京書籍は各地方に応じて色が違う、例えば関東とか近畿とか色が違うので、地域ということが見やすくつくられていると思いました。いずれの地図も初めて手に取るには資料も同じような分量で載っていますし、探すのも見やすい地図だと思いますが、東京書籍には縮尺に工夫があったように思います。縮尺を物差しで測って見ることができるような工夫がされていて、とても親しみやすく感じました。また、県においては似ている形でクイズのような感じで探す、そんなような工夫もされているのがいいかと思いました。

帝国書院の地図は見開きで、日本がアジアの中でどの位置にあるのかというような位置関係が非常に明確に示されているので、アジアの中の日本の位置がわかりやすい構成になっていると思いました。どちらの地図もすばらしいと思い、選択するにはとても悩ましい問題だと思いましたが、初めて見る地図は大きい方が見やすいのではないかと、また文字が大きい方が

探しやすいのではないかという観点から、東京書籍の地図は初めて地図を手にする子どもも見やすい編集になっているのではないかと思います。また、紙質が文字を書き込みやすいような紙になっているのもいいかなと思います。

吉田委員

地図については2者ということで、それぞれ特色があると思います。東京書籍はA4版で地図が大きいということは、子どもたちが見やすいと感じます。地図にそれぞれテーマがありまして、県の様子をよく見取ろうとか、地域を詳しく見てみようというふうに、地図そのものとして見るのが楽しいかなという感じを受けます。巻頭の日本の見開きの地図は、子どもたちにインパクトが非常に強いなと思います。それから縮尺に工夫があるとおっしゃっていましたが、本当に工夫があって、自分たちが実際に使っているものがその地図上に載っているということで、縮尺の概念が身近なものとして感じられるのではないかと思います。子どもたちの興味、関心を引く地図、手に取っていつも見ていたい地図という観点では非常に面白いなと思うけれども、その反面、社会科の授業で実際にどのように使うのかといったときに、4年生以上で日本の都道府県をまず覚えましょうみたいのところから始まって、産業はどうなっているのと5年生に移っていき、歴史的な場所はどういうふうになっていくのだろうかとなったときには、帝国書院の地図は非常に豊富な資料があって教科書とリンクさせながら、いろいろなものを見て取っていかれるというような感じがします。高低差が見やすいということもそうですし、それぞれの大陸の部分図ごとに国旗が掲載されているというようなこともその1つだと思います。薄い感じがしますが、グラフとか図表に関しては東京書籍の2倍ぐらいの資料が入っているというようなこともあります。審議委員会の中でも審議委員のみなさまも資料が豊富で、資料として使う地図であれば帝国書院がいいかなと、子どもたちが手に取って地図に親しむという点では東京書籍がいいかなと。本当は4年、5年、6年と分けられれば一番いいのになと私も思った次第です。学校の方の調査票を調べて見ますと、6番、7番、8番の項目がその地図に特化した項目になっていまして、そちらの表を見ていきますと、資料が豊富であるという点においては、各先生方が帝国書院がいいと言っておられるけれども、身近にあるとかイラストで親しみやすいとか、地図を地図としてみた場合は東京書籍の方が多という印象を受けました。トータルの数というよりは、その地図の持っている特性を見ていくと、資料なのか、地図を地図として取るのかというところで大変迷いましたし、どうしようかと考えたのですが、4年前の東京書籍の地図に比べますと、その当時、私が疑問に思っていたようなところをクリ

アーにしていまして、高低差をつけてきたり、資料がわかりやすく随所に入っていたりという形で調べやすさ、親しみやすさに加えて、新たに子どもたちの資料についても工夫をこらしている部分があると思いました。したがって、子どもたちにとってグローバルな視点で世界の地図を見る、そういった視点も含めて今回、私は東京書籍がいいと思います。

井上委員長

私も地図は大好きなのでよく見ますが、地図は帝国書院と思っていたのですが、東京書籍もなかなかいいものをつくっていると率直に感じました。4年生から地図を始めるわけですが、取っつきやすいのは東京書籍かなと感じました。資料の多さからすると、帝国書院の方がかなり多くなっていますので、高学年とか中学生には帝国書院の方がふさわしいかなと思いましたけれども、入門としましては東京書籍の方がいいかなということと、東京書籍も前回に比べて内容が充実しているということで、ページ数も23%増やしたということで、かなり充実した内容になっているということも含めて、小学校の地図は、東京書籍の方が導入しやすいかと感じて読ませていただきましたが、他にご意見はありますか。

赤見委員

私も地図は帝国書院の世代ですけれども、東京書籍は見やすく、わかりやすさが特色で、視覚的に情報がつかみやすい構成になっているので、4年生には非常によいと思います。吉田委員がおっしゃっていたように、低学年は東京書籍で、5～6年は帝国書院で2冊渡せば一番いいと思うのですけれども、それは適わないということですし、帝国書院は現在、中学校で採択されているので、帝国書院は中学校に譲るということにしたいと思います。

井上委員長

いろいろな視点からいただいた意見を参考にしますと、地図は東京書籍ということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長

ご異議がありませんので、「地図」は「東京書籍」にいたします。

×××

続いて、「算数」についてです。発行者は6者。東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版です。ご意見を願います。

赤見委員

算数ですけれども、今の世の中を見ていると、九九ができない大人も結構いるというような状況もありまして、算数というのは、非常に取っつきにくいというのがありまして、導入の段階が非常に大事かと思っています。まず教育出版ですが、1年生の教科書は絵がカラフルで、児童の関心が高まるような導入になっていると思います。単元の始めにはどんな学習が始まるのかということで、既に習った事項からスムーズに学習内容へとつな

がるようになっていて、つまづきの多い作図なども繰り返し記載されていると思いました。また、巻末に学びの手引きがあり、コンパスの使い方などが詳しく説明されていて、算数、特に図形嫌いの子にはいいのかなと思いました。また、これは瑣末な話ですが、今年の2月に検定を受けているにもかかわらず、この教科書だけが4月からの郵便料金に対応した82円切手になっていて、細かい配慮を感じたところです。また、4年下の「宇宙にはばたく折紙の知恵」は、興味深く見させていただきまして、図形の苦手な児童が図形を好きになるきっかけになればいいと思いました。

関野委員

算数は赤見委員がおっしゃったように、なかなか取っつきにくい科目だと思うのですが、各者いろいろな工夫がされているなと感じました。その中で私は東京書籍を推したいと思います。東京書籍は単元ごとのまとめ方がとてもうまく仕上げられていると思いました。単元ごとに一度きちんと振り返りをするページがあって、わからなくてもそのまま通り過ぎることのないような工夫がされていると感じました。また、学習の上でのヒントを与えてくれる教科書のあちらこちらにキャラクターがうまい具合に配置されていて、子どもたちの考え方の手助けをしてくれて、算数にできるだけ苦手意識を持たないような配慮をしてくれていると感じました。また「マイノート」、ノートの作り方などの記載もあって、自然と学習方法が身につくような流れをつくってくれているのではないかと感じました。算数は学年が上がっていくごとにだんだん難しくなっていくわけですが、東京書籍の教科書は、1年生から6年生までの間に急に難しくなってしまうような印象を受ける部分が少なく、無理なく一つひとつ次の単元に進んでいけるような作り方をしていると感じました。

阪井委員

赤見委員、関野委員がおっしゃっているように、算数は積み重ねていく勉強です。積み重ねていくことが大事で、振り返り、繰り返しながら学んでいく教科だと思います。その中において東京書籍についてお話をさせていただきたいと思いますが、算数が苦手な子どもも「マイノートをつくろう」ということで、ノートの作り方がとても具体的にわかりやすく記載されています。ノートをつくることによって、理解が深められるのではないかと思います。また、お友達が書いているのを見ながら、自分自身の理解をさらに深めていくような工夫もされているかと思います。また、振り返りコーナーで、学び直しができたり、繰り返し学ぶことで学習習慣が身につくのではないかと思います。補充問題やレベルが違う2段階の問題があって、個人差に対応しているのではないかと思います。自学自習の習慣

をつけること、反復をすることが基本的な算数の力をつけていくことになるのではないかと思います。また、このノートをつくるということは、これから先もどのように考えたのか、自分で説明をするということにもつながりますので、小学校から中学校へ向けても大事な学習になるのではないかと思います。

吉田委員

算数については一度苦手意識を持ってしまうと、なかなかそこから脱出できないということもありますので、入門期、特に1年生で算数とどう出会うかというのは非常に大きいことだと思います。そういう意味で言いますと、東京書籍は入門期での1年生のイラストが大変可愛くて、見開きで学校をイメージしたイラストを使っています、数を調べる意欲がわくような、また、算数の勉強をするときには数を数えるということではなくて、そのイラストを見ながらお話もつくっていくようなことを小学校ではやるのですが、そういった授業にも発展できるのではないかと思います。

それから算数と日常を結びつけようとする工夫。算数って何で勉強するのか意味がよくわからないという子がいますけれども、そういった意味では算数と日常生活を結びつけようとしている「やってみよう」のコーナーなども非常に有効ではないかと思います。先ほどから上がっていますノートですけれども、ノートの使い方を学ぶことによって、あるいは自分でノートをつくることによって自分で考える、表現をしていくということが非常に有効になってくるのではないかと思います。

それから東京書籍は練習問題にもいろいろ工夫がしてありまして、自分の力を知るという意味でも力をつけるとか、仕上げというふうに、難易度の段階があるということも、学習の目的をはっきり持って子どもたちが使いやすいのではないかと感じました。

それから「課題と問題の解き方」を示すページが表裏とありますか、課題が右側のページに載ってしまっていて、めくると左側のページに答えが出ているという形で、子どもたちにそこで思考させる時間が取れるのではないかと思います。

それから藤沢の子どもの特性の1つとして、いろいろなグラフとか表というところから必要な情報を読み取って考えるというようなこと、身の周りの事象を数学的、算数的に解釈して、それを友達に伝えるといったことがなかなか苦手な部分があるのですけれども、東京書籍の「算数の目で見よう」ということとか、「算数おもしろ旅行」、「算数卒業旅行」というところでおもしろい問題があって、答えが1つではないと、いろいろなことを考えながら話をしていって、整理をしていくことも大事なんだよというところは、中学校の数学への意識につながっていくのではないかと感

じました。

東京書籍はそういうところで優れていると思ったのですけれども、おもしろいなと思ったのは啓林館の教科書でした。3年生までの各箇所に子どもたちが実生活で活かせるような単元がありまして、1年生では「100円がかいもの」というコーナーがあって、100円持って何を買うのかといった、実際にある場面を切り取ったような状況がありました。それから「わくわく算数」というコーナーでは、コミュニケーションを図るための工夫が見られましたし、学びを活かそう、考えよう、広めようというのが充実しているように思いました。中でも一番充実していると思ったのは付録で、この付録はよく考えられているなど。「べんりなものさし」、「九九の円ばん」、「いろいろなマンホール」、「かたむき分度器」と、使いたくなるような、どんどんそれで算数に入っていきそうな感じがするような付録でした。付録は付録としてですけれども、実際に使っていくには東京書籍がいいかと思いました。

井上委員長 私も皆さんとほぼ同じようなことで、東京書籍がいいと思いました。特に日常生活の中で、買い物で場面を算数を使ってみよう、やってみようと思えるのは東京書籍かなと思いました。

赤見委員 東京書籍に関して少し意見を述べさせていただきます。「マイノート」という話がありましたけれども、東京書籍はわかりやすく説明がいいと全体的に感じております。「マイノート」で自分の考え、友達の考え、学習、感想などを書く活動が示されていて、主体的な態度が育まれやすいかと思いました。また、2年の下では「九九名人にんていしょう」という巻末付録がありまして、これを目指して、九九の苦手な子がいなくなればいいと思いました。

また、実生活と算数の話ですが、6年生のところで外国のおつりの出し方が紹介されていて、千円札で650円のものを買おうと、50円足して700円、800円、900円、1,000円と、そういう出し方が紹介されたと思うのですけれども、引き算ができないとこうなっちゃうぞみたいな形で、実生活で算数が必要なんだということがよくわかるのではないかと思いました。

井上委員長 各委員から意見が出ましたが、算数につきましては、東京書籍という意見でまとめられるかなと思いますけれども、算数は東京書籍でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「算数」は「東京書籍」にいたします。
×××

続いて、「理科」についてです。発行業者は6者。東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、啓林館です。ご意見をお願いいたします。

関野委員

3年生からの理科ですけれども、どの会社の教科書も写真やイラストなどをふんだんに使って、子どもたちの関心や意欲を高めるような工夫が、他の教科に比べてもすごく工夫がされているなど感心しながら読ませていただきました。理科では実験や観察など、興味を持って積極的に取り組むことができるような教科書がいいかなと思っています。その中でも大日本図書は、全学年共通で単元ごとに“？”マークから観察や実験、そしてわかったことというくくりで一連の流れをうまくまとめていて、とてもわかりやすいつくりになっていると思います。また、3年生の目次の部分に「理科では身の周りで見つけたはてな(?)を調べます。？をみんなで考え、解き明かしていきましょう」と、理科という授業がどういう目的で行われるのかというのが明確に記されているなどと思いました。学年ごとに表現は異なっているのですが、このような言葉で、目次で何をするのかを明確にし、疑問を子どもたちが解決していくという流れをうまくつくっていると感じました。大日本図書の教科書なら、実験や観察を通して楽しみながら、知識を身につけていくことができるのではないかと思います。

吉田委員

理科については、関野委員がおっしゃったとおり、図版がきれいで写真が大きく取り上げられていたり、裏表で工夫をされていたりというようなところがよく見て取れました。東京書籍の教科書は、学習の目当てがどの教科書でも明らかになっていまして、ここでも単元の流れというか授業の流れが見開きで示されて、不思議をつかむ、不思議を解き明かす、その中に問題観察、実験、結果、考えよう、まとめよう、そして最後に学習を振り返るというにして、非常に流れがわかりやすいと思います。子どもたちが意欲的に観察、実験に入っていくには、どんなときにも流れがしっかりわかっていることが大事だと思いますし、そのための手順と方法を学ぶことで危険の回避にもなるのではないかと考えます。

大日本図書ですけれども、同じように見つけよう、調べよう、まとめようとなっていて、実験の前に必ず「予想しよう」というコーナー、観察の前には「計画を立てよう」というコーナーがありまして、子どもたち同士で話し合いをして進めていかれるような比較的自由度が高い、子どもの発想を大事にしているような気がしました。「理科の玉手箱」は大変読み物としては面白くて、知識を広げていく基本をしっかり押えながら、子どもたちがみずから試し、進めていくことができるような教科書だと思います。また、顕微鏡等の使い方が折り込みになっていまして、それを開

くと飛び出す形になっていて、いつでもどこでも開けば顕微鏡の使い方がわかる仕かけになっているのもおもしろいと思いました。

それから啓林館の教科書ですけれども、本当に理科が大好き、理科の読み物として大人が学ぶための教科書であってもいいぐらい大変資料も豊富でいいなと思ったのですけれども、実際に授業でどういうふうにするかと考えていくと、分量が多くて難しいのかなと思いました。こちらも見つけよう、計画しよう、調べよう、振り返ろうと授業の流れも明確ですし、子どもたちに興味、関心を持たせるために別冊に「わくわく理科プラス」というのがついていて、導入に使ったら面白いだろうな、あるいはまとめに使ったら面白いだろうなと考えるとところもございました。本当にどれがいいのか、悩めるところであります。

阪井委員

理科の教科書の中では、大日本図書についてお話をしたいと思います。吉田委員、関野委員がおっしゃっているところと同じようなことは割愛をいたしますけれども、学んだことを活用して「つくってみよう、やってみよう」という自発的な活動ができるようになってるのが、この教科書のいいところかなと思いました。また、巻末に次の学年で学ぶこと、どんなことを学ぶのかとか、この学年でどんなことを習ったのかというようなことが紹介されているページがあって、また、習ったことに対しては科学者の言葉が紹介されています。その科学者の言葉のところにもまた習ったページが書いてあり、振り返ることができる、そのような工夫がしてあるのもとてもいいと思いました。

藤沢市という観点から見ると、防災についてのことですが、「理科の玉手箱」の中に、6年生では「災害から身を守る防災について考える」ということで、藤沢は海に近いので、家族で防災について話し合う必要があるという記載がありましたので、その意味からもこの教科書がいいかと思いました。

赤見委員

日本の物づくりを支えているのが理科、そして理科が好きで、そのまま発明家、さらには藤沢からノーベル賞受賞者が出ればいいなと思いついておりました。2つの教科書に関して啓林館と大日本図書についてお話をさせていただきますと、これも対照的で啓林館は大日本図書のページ数より4割ぐらい多いというような状況で、非常に図表が多く、写真の構成も見事で、情報量が多く、吉田委員がおっしゃったように、理科好きにはたまらない教科書だと思います。巻末の別冊「わくわくプラス」も非常に魅力的なものだと思います。

そして私が思ったのは、理科というのは実験が行われるわけですから、実験だけがをしないということは非常に大事なことだと思いますけれど

も、危険防止のコメントを目立たせるために、啓林館では赤を使ってわかりやすく注意を促しているのです、これで実験中のけががなくなればいいなと思いました。一方、大日本図書は非常にシンプルな構成で、ページも少ないけれども、丁寧に学習の流れがわかりやすい。本市との関連の中でも、6年生の土地のつくりと変化で江の島が取り上げられていたということで、2つの教科書がいいと思いました。

吉田委員 先ほど3者について述べさせていただきましたけれども、やはり分量が適切であるということと、冒頭に申しあげました先生方へのお願いというところで、先生方がいかに使い手となって教科書を使っていくかという観点で見たときに、授業の流し方を教員が工夫できる余地があるのではないかと、それだけ説明が丁寧に細かい分だけゆとりがあるということですけれども、今、赤見委員がおっしゃったように、実験の際の事故がないように配慮していただきながら、先生方が授業の流れを工夫していただく余地がある、薄い教科書だけれども、図表や説明も大変整理されているという観点から見れば大日本図書がいいと思います。

井上委員長 以上、意見を出していただきましたけれども、本市の子どもたちのためにも、大日本図書の教科書が適切ではないかということですが、他に意見はありますか。

井上委員長 いろいろな視点からご意見をいただきましたけれども、理科は大日本図書ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「理科」は「大日本図書」といたします。

×××

続いて、「生活」についてです。発行業者は8者。東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書出版、啓林館、日本文教出版です。ご意見をお願いします。

関野委員 1年生が新しく学校生活というものを始めて、身近な自然や自分の住んでいるまちなどに触れて社会性を身につけたり、目に入るいろいろなものへの興味を持たせるというような教科書と想っていますけれども、各者とも草花や昆虫の観察、また季節の移り変わりなどを感じたり、街探検といったもので地域とのかかわりに関心を持たせるなどをして、少しずつ1年生、2年生となってお兄さん、お姉さんへ成長していく学びを、どの教科書も手助けをしてくれているのかなと教科書を読んでいて感じました。

その中でも大日本図書は上下巻とも真ん中あたりに透明のシートを挟んで、上巻では生き物の観察を草木で見え隠れできるようにしていて、子どもたちが興味を引くというか、喜ぶような工夫をしていました。また、

下巻でも病院、コンビニ、交番とか夜働いている人を懐中電灯のような仕組みで探すというような面白い工夫がされていました。子どもたちがこういうものを通して教科書に親しみを持てるのではないかと思いました。大日本図書の教科書はすごくいいなと思いました。

赤見委員

生活という科目はあまり子どもになじみはないけれども、学習指導要領を見ますと、安全教育ということがまず上げられています。先日、児童が監禁されたような事件がありましたけれども、啓林館では最初の方に「いかのおすし」、行かない、乗らない、大声を出す、すぐ逃げる、知らせるというのが載っていて、安全教育に重点が置かれているなというところが見られました。また、「いきいきずかん」というのがよくまとまっていて、道具の使い方、防災など生活の知恵がいっぱい詰まっていて、指導要領の趣旨に合っているのかなと感じました。

吉田委員

1年生で新たに学校に来て、いろいろな不安がある中でこの教科書と出会って、いろいろな体験をしていくのだろうなということが想像されるような教科書がいいかなと思っています。学校の生活に慣れることとか、「学校教育ふじさわビジョン」にもありますけれども、ひと、もの、こととの関わりを大切にしていって、自然とコミュニケーションの能力が養われていく、そしてまた地域や地元の人たちとのかかわりの中で進んで人のために働く、そういったような教科書であってほしいし、教科書を学ぶということではなくて、教科書を通じて学んでいくことが、子どもたちの心の醸成になるような状況がいいと思いました。どの教科書もそういった意味では、人との関わりということをととても大事にしている教科書だと思ったのですが、東京書籍では上巻で学校やその周り、下巻ではまち、地域へと活動の輪を広げていて、その中で生活に必要な習慣や技能が取り上げられていて、子どもたちが不安なく学校生活になじめるような流れになっているのではないかと思いました。

写真とかイラストも大変適切なものを使っていますし、子どもたちが自然に話したくなるようなつくりになっている気がします。1年生の学校生活の様子、特に下の方をちょっと切ってある「すたあとぶつく」というのがつくってありまして、それが学校に通える要素として、順番に対応していけばいいのかなと思います。

それから「本当の大きさ図鑑」というのがありまして、実際、手に取ってみるとということがなかなかしづらくても、このくらいの大きさの草花なんだというのが感じとして受けとめられるし、芽とか葉とか開くと花が咲くといった工夫も随所にあって、実際に花と対話をしているようなこともできるのではないかと思う教科書でした。また、巻末に「べんりてちょう」

という資料も載ってまして、これは大変使い勝手がいいのかなと思います。

それから学校図書はイラストがとてもすてきで、見開きで学校の1日の様子がわかったり、ダイナミックな写真の使い方が随所にあって子どもにとって大変見やすく、想像力をかき立てるといった状況ではないかと思えます。「ものしりノート」「チャレンジずかん」「生きもの図かん」「学び方図かん」、それから赤見委員がおっしゃった「安全のページ」も大変よくまとまっていて、学び方の力をつけるのではないかと思いました。

教育出版は、学習のヒントをまとめてあったり、注意事項をしっかりとまとめてある「発見のヒント」というのが大変よくできていると思えましたし、「ぐんぐんポケット」というのでは約束事の意識、学びのルールというのが学べるようになっていて、活用しやすいかと思えます。どの教科書であっても子どもたちの実態に応じて先生方が授業をしていくと思えますけれども、資料、イラスト等の関係で東京書籍がいいかと思えます。

阪井委員

私も「生活」というのは余りなじみがない科目だったのですが、教科書を見て、何を学ぶのかということが一番よくわかったのが東京書籍だったように思います。まず巻頭に「すたあとぶつく」というのがあって、その中には保護者へのメッセージがあって、学習の内容が書かれています。また、児童にとっては「どきどき、わくわく1年生」という題があって、学校での生活が丁寧に写真や吹き出しの言葉で書かれていて、楽しく、安心できる学校生活の様子が描かれていました。そしてその後、通学路、学校の中の探検、そこから始まって栽培、春夏秋冬の四季の変化が写真や実物大のイラストで丁寧に、きれいに書かれていることが、子どもへの興味や関心を持たせ、自分でも探してみたいなというような意欲に変わっていくような教科書ではないかと思いました。

その教科書の中においても、約束事、例えば「手を洗いましょう」というようなマークがついていて、学校生活の基本的な生活習慣が身につくような取り組みもされていました。さまざまな自然や地域や社会の中から「気づき」を子どもたちが自発的に気づくように、児童のイラストの中からは気づいたことが語られていて、先生のイラストからは気づかせるための言葉かけが書いてあったりというようなことが具体的になっていて、子どもたちが気づきの質を高めていける、そんなような教科書のような気がいたしました。非常に使いやすく、子どもたちにたくさんの方に気づき、学んでほしいと思いました。

井上委員長

私も2者について説明を加えますと、啓林館の「たんけんブック」が面白いなと思いましたが、生きるための基礎が十分なのかなということを感じ

じました。東京書籍は、どの写真を取っても楽しそうなわくわく感があるような写真が印象的でした。全体の構成が理路整然としているのは、東京書籍かなと感じました。

以上を含めて他にありますか。

関野委員

東京書籍について一言、言わせていただきますと、全体的に見やすく、わかりやすい教科書に仕上がっているなと感じました。写真、文字も非常に大きく見やすいと思います。イラストは柔らかくてパステル調というか、すてきなイラストで、見ていてほっこりさせられるようなイラストを採用されているなと感じました。また、上巻の最後についている「ポケットずかん」は、春夏秋冬の四季の草花とか昆虫がうまくまとめられていて、実際の観察なんかでもうまく活用できるかと思いました。

井上委員長

いろいろな視点からご意見をいただきましたけれども、生活は東京書籍でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長

ご異議がありませんので、「生活」は「東京書籍」にいたします。

XX

続いて、「音楽」についてです。発行業者は2者。教育出版、教育芸術社です。ご意見をお願いいたします。

赤見委員

教育出版は、全校合唱ができる歌として親しみやすい「となりのトトロ」の挿入歌、「さんぽ」が全学年で載っていて、学校全体の一体感ができるいい企画だと思いました。また、日本の歌や譜面や楽器の説明が多く、表現活動に役立つのかなと、そして鑑賞教材の中に藤沢に関連の深いオペラやコンサートホールの様子が見開きで紹介されていて、非常に見応えがあるなど、そういった意味で取っつきやすい教科書だと思いました。

関野委員

音楽は教育出版がいいなと思いました。教育出版の教科書は、鍵盤ハーモニカとかリコーダーの扱い方がわかりやすく記載されていると感じました。4年生の教科書では折りたたんだページを開いておくと、どのページを開いてもリコーダーの指づかいの解説がされているページが一番右に開かれたままになっていて、楽譜を見ながらでも指づかいを確認することができるというような工夫がされていると感じました。また、全体的に写真の使い方が非常にきれいで、日本の歌の「茶摘み」とか「さくらさくら」「富士山」といったところの写真がとてもきれいでした。また、オーケストラの迫力なども十分に伝わるような写真が掲載されていて、子どもたちがそれぞれの歌や曲に、とても入り込みやすつくられているのではと感じました。

それから国歌「君が代」の扱いも、教育出版の場合は2ページと見開き

で大きく掲載されていて、「さざれ石」の写真を掲載したり、歌詞の意味も解説されていて、とても丁寧に扱われているなという印象を持ちました。

吉田委員

「音楽」については、音を楽しむこと、歌うことや楽器の演奏を通じて子どもたちが1つになれる、そういった心を育んでもらいたいと思うこと、それから一生涯音楽に親しむような藤沢ならでの環境もありますので、そういったところでの情操を養うものがないかなと考えます。2者の場合はそれぞれ教科書会社の思いというか、特色が出ていまして、教育出版の方は情感豊かにいろいろなもの、バラエティにあふれた曲想を子どもたちに伝えようと思っているというのが随所に見られました。音楽の表現の鑑賞も含めて基礎、基本が身につくようにしたいとか、好きな道をたどっていくと旋律が自然とできるような、音のすごろくのような楽しい教材であったり、透明シートが入っていたり、随所に子どもたちの興味、関心を引くような教材が入っているなという印象を受けました。高学年に対しては音楽家からのメッセージも入っていて、あるいは写真がきれいだったりとか、音楽を離れても情操が豊かになるような教科書かなと思いました。

それから教育芸術社の方ですけれども、題材のトップページに左側に必ず題材目標が書かれていまして、ページの上部には教材の学習目標がしっかり示されていて、子どもたちがこの題材で何を学ぶのか、何をするのかということが明確にわかりますし、同じく教える教員の方も学習の目当てがしっかりわかって、この教材に取り組めるというような利点があるのではないかと思います。学習の見通しが持てる教科書ではないかと思いました。

それから題材のテーマに合わせて子どもたちが学びやすいように、また、情感豊かに感じさせるような教材の工夫がされておりまして、「ダン」というキャラクターが出てくるのですけれども、そのキャラクターが音楽のエッセンスとかポイントをわかりやすく吹き出しにして伝えているということも、楽典的な学び、音楽の基礎を学ぶという意味では非常にわかりやすいのではないかと思いました。「心の歌」として共通教材が掲載されておりますし、「歌い継ごう日本の歌」「みんなで楽しく」といったような合唱、合奏教材が非常に多いと思いました。情感として豊かな音楽を伝えたいというふうな思いと、こつこつと楽典も含めて基礎、基本を音楽で学んでもらいたいという意味で言うと、教育芸術社の方がいいのかなと思いました。大変迷ったところです。

阪井委員

2冊の教科書なので比較をしてみると、どちらもそれぞれにすばらしいところがあり、教育出版では情感をそそられるようなきれいな写真や大き

な見開きのページの中から迫力を感じたり、また、古典、雅楽などのものについても理解を深めるような工夫がされていてすばらしい教科書だと思いました。ところが音楽の授業は1年間に50時間しかないということを知ると、たくさんのボリュームがあっても学び切れないで終わってしまうのではもったいないのではないかとということも感じました。

そういう中で私は教育芸術社の教科書について、少し話をさせていただきたいと思います。教育芸術社の教科書は、1年生から6年生までが同じように系統立てて編集されています。各学年に心の歌やその心の歌は古くから歌い継がれてきた、これからも歌いたい歌ということで、1年生では「ひらいた、ひらいた」「かたつむり」などが載っていて、6年生になると「おぼろ月夜」や「ふるさと」というように私たちの心の中にいつも残っているような歌が掲載されていたり、また、「歌い継ごう日本の歌」「みんなで楽しく」というようなところでは、どの学年もその年齢に応じた曲が配曲されているように思います。楽器ですけれども、教育出版の中にはハーモニカというのを取り上げられていたのですけれども、実際に今、藤沢市ではハーモニカの指導はされていないということだったので、教育芸術社の方には載っていなかったのですけれども、これは問題がないのかなと思いました。鍵盤ハーモニカやリコーダーの使い方についてもわかりやすく、写真で掲載されていました。

もう1つ、「音をつくる」というところでは、1人で音をつくるのではなくて、みんなと一緒にリズムを鳴らしてみる、星空を鈴やトライアングルで表現してみたり、また、6年生になると「和音の中で旋律をつくろう」というように、段階を追ってみんなで音をつくっていくというような教科書になっていました。そして各巻末には振り返りとして、学んだことが確認できるような編集になっているのもとてもよいと思いました。

井上委員長

教育出版のものは23年版に比べて総ページが若干増えているということで、選択の幅を広げているということだと思います。教育芸術社については「心の歌」といったところで共通教材が使われているということと、低学年では表現教材にわらべ歌、唱歌、中学年では鑑賞教材としてお囃子とか民謡等が組み込まれております。高学年では世界の国々の音楽に親しむというようなところが組み込まれておまして、かなり玄人受けするようなところもあるのかなと感じましたけれども、教育芸術社の方が教える方としても、教え甲斐があるような教科書かなと私は感じております。教育出版、教育芸術社の2者になっていますけれども、他に何かありますか。

赤見委員

教育芸術社は専門性が高いような感じがいたしまして、旋律や和音などが丁寧に扱われていて、リコーダーの吹き方も必要なことだけを簡潔にわ

かりやすく説明していると思いました。音楽づくりの面に関しても、星を見ながらつくってみましょうみたいな形で工夫がされているのかなと思いました。全体の印象として、低学年に親しみやすい教育出版、高学年では教育芸術社が理想的かなと思いますけれども、教育芸術社で問題はないと思います。

井上委員長 いろいろな視点でご意見をいただきました。取りまとめますと、教育芸術社というふうに感じておりますけれども、音楽については教育芸術社でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「音楽」は「教育芸術社」にいたします。

XX

続いて、「図画工作」についてです。発行業者は2者。開隆堂、日本文教出版です。ご意見をお願いいたします。

関野委員 2者のうち、開隆堂がいいのかなと思います。開隆堂の教科書はサイズも大きく、作品の写真もはっきりと印刷されていて、全体的に子どもたちが実際に描いたり、つくったりするときの参考にするにはとてもいいのではないかと思います。また、全巻の巻頭に「小さな美術館」というコーナーがあって、身近に美術作品に触れる良いきっかけになっているのではないかと思います。

それから「みんなのギャラリー」というページでは、子どもたちが楽しく工作などに取り組む姿をたくさん掲載していて、また、伝統工芸などへの挑戦など、子どもたちにぜひ興味を持って取り組んでもらいたいというようなページがあって、いいページだと感じました。

吉田委員 図画工作も2者ということで大変迷うところではあるのですが、日本文教出版の方は印刷、「風神雷神」など掲載している作品例がインパクトの強いものが多かったと思いました。また、載っている写真には、作品をつくっている子どもたちの表情も生き生きしているものが多かったと感じました。図画工作は、子どもが描くこと、つくること、鑑賞することが楽しいと思える作品例とか、さらにつくってみたいと思うような教科書がいいと思っていて、そういう点で開隆堂は、教科書1冊1冊に「わくわくするね」「みんなおいでよ」「できたらいいな」「思いを込めて」「心をつないで」「夢を広げて」というふうに教科書に名前が載っているのが非常にいいなと思いました。その願いがしっかり教科書の中に入っていて、さらにそこから作品をイメージできるような題材名がわかりやすくなっている。「つづきえどんどん」「むすんでつないで」それを見るだけでどんなことができそうかなという想像力がわくような思いがしました。

それから見開きで一題材になっていますので、非常に授業構成がしやすいなと思いました。子どもたちの次の発展のところでは「ひらめきコーナー」というようなコーナーもありまして、これも大変いいコーナーだと思います。全体的に想像したことを表現に変えるにはこんなふうにしたらいよいよねというコーナーがたくさんあるように思いましたし、さらにそれを行っていくためには、実際に道具をどう使うかというような点、あるいはパレットをどう使うかというような点でも「道具箱」や「パレットコーナー」というようなものがあったり、実際に見た作品をお互いに鑑賞し合うようなところでの小さな美術館、みんなのギャラリーといったところも充実していて、非常に領域的にもバランスがいい教科書だと思います。

赤見委員

学習指導要領の表現と鑑賞に分けて、2者の教科書について述べさせていただきます。日本文教出版は、表現において児童がお友達と一緒に作品づくりに取り組んでいる場面が非常に多く取り入れられていて、ダイナミックな創造活動や多くの材料やアイデアが紹介されていて、創作意欲が高まったり、イメージが広がったりすると感じました。ただ、教える方は大変なのかなと思いました。

開隆堂は、表現においては身近な素材を使ってつくれる作品が多くて使いやすいのかなと感じました。また、さまざまな場面で作品の飾り方や展示の工夫が示されて、表現した作品が学校でそのまま鑑賞活動につながるのかなと思いました。また、鑑賞において日本文教出版の方は非常に有名な作品、吉田委員がおっしゃった「風神雷神」等々見応えのある作品が多くて、私は日本文教出版がすきですけれども、開隆堂の方が扱いやすいのかなというふうに思いました。

阪井委員

私は開隆堂の教科書についてお話させていただきたいと思います。先ほど他の委員からもお話がありましたように、見開きの1面に一題材が載っているということがとても見やすくなっていると思います。その中に載っている写真が、お友達と一緒に楽しく制作しているような風景の写真が使われていたり、また、吹き出しを使っているというところに子どもの意欲をかき立てていくのではないかと思います。「パレットコーナー」や「道具箱」として用具の扱い方が掲載されていますけれども、この題材のページの中でも実際に絵や写真で使い方が紹介されているので、作品を制作していく中で取り組みやすい配慮がされているのかなと思いました。また、安全とかお片づけというようなことが書いてありまして、制作する途中で使う用具によってはけがをしてしまうようなものもありますので、安全やつくった後の絵の具や他の用具のお片づけということをしていくことの

大切さも書かれているのが非常によいと思いました。

また、目次の中に、それぞれの題材で使う主な用具や材料が記述されているので、制作前の準備をしていく段階でもわかりやすくなっている、そんなような配慮がされていると思いました。

井上委員長 私も日本文教出版の方が、絵はきれいだと思いました。開隆堂については自然素材を扱うこと、あるいは自然豊かな場所で表現活動をするというようなところが特徴的かと思いました。自然のよさを感じ取れるような題材が多いのは、開隆堂かなと思っております。日本文教出版と開隆堂と少し分かれていますけれども、他に意見はありますか。

井上委員長 いろいろな視点からご意見をいただきましたけれども、図画工作は開隆堂ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「図画工作」は「開隆堂」にいたします。

×××

続いて、「家庭」についてです。発行業者は2者。東京書籍、開隆堂です。ご意見をお願いいたします。

阪井委員 開隆堂の教科書について、お話をさせていただきます。2年間の見通しというのが最初のページに書かれていて、家庭科で何をするのかということが明確に書かれています。「毎日の生活を大切にし、よりよく過ごすために必要なことを学びます。家族の一員として学習を進めていきます。」というふうに具体的に書かれていて、2年間でできるようになりたいことを記入していく欄があり、何のために学ぶのかというようなことが明確化されているのが非常にいいと思いました。イラストや写真が効果的に使われていて、初めて行うこと、例えば調理や裁縫などについても手順がとてもよくわかるようになっています。また、「安全チェック」や「できたかなチェック」などがあって振り返りをすることもできるようになっています。非常に学習の目当てが明確になっている教科書だと思いました。また、藤沢市の中で行っている3Rの運動や、また学校を回るときにはどこの学校でも栄養素が3つの食品グループに分かれていて、赤、黄、緑というふうに色分けされている掲示をよく見ますけれども、そういう意味では藤沢市の子どもたちにとっては、栄養素などについてもわかりやすい表記がされているのが開隆堂の教科書ではないかと思いました。

関野委員 開隆堂の教科書がいいと思いました。阪井委員もおっしゃいましたけれども、巻頭の見開きページで2年間を通して、できることをどんどん増やして中学生になっていくまでのプロセスがうまく記載がされていて、「家庭」という授業でどんなことを学ぶのが明確になっていていいなと思い

ました。また、内容については調理の説明のところが写真をたくさんきれいに使っていて、まるで本屋さんで売っている大人が使うレシピ本のように丁寧に掲載されていました。でき上がり写真もとてもおいしそうに撮られていて、子どもたちがその料理をするにあたって意欲を高めるのにとっても効果的ではないかと思いました。

赤見委員

開隆堂の方が、全体としては見やすいかなと思いました。調理の単元のところでは、調理の手順が横に順番に写真が並べられている工夫がされていて、学びやすいと感じました。また、消費生活と環境の点では、ペットボトルのふたを使ってつくる針刺しが紹介されていて、実績だと思いました。

東京書籍でいいと思ったところは、5年のミシンについて、各名称が大きく丁寧に解説されていたという点と、包丁の使い方のところで左利きの子どものための解説写真も載っていたところが、東京書籍がいいと思った点でございます。

吉田委員

私も、家庭科は開隆堂がいいと思っています。東京書籍の方は、流れが明確であるというのはいいなと思うところです。見つめよう、計画しよう、活動しよう、生活に活かそう、新しい課題を見つけようということで、その中で人とともに生きることや、家族の一員としてより良い生活を送るといった態度を身につけることができるような、学習のステップなんだろうなと思います。それから「いつも確かめよう」というのは大変わかりやすく、子どもたちが自分自身の日常を振り返ることができるなと思ったところです。

開隆堂は教科書を開くと、阪井委員がおっしゃったように、学習の流れが出ておまして、その裏面に「安全に学習を進めるために」という安全への配慮が行き届いているのが特色かなと思います。題材ごとに学習の目当てと本文の項目番号、振り返ろう、活かそうというのが対応してまして、子どもたちが主体的に学べるように工夫をされている。そのもう1つの工夫が、色分けインデックスがついてまして、家庭や家族、食生活、衣食住、消費環境というふうな分野が一目でわかって、その分野別に見ていこうとすれば、それはそれで見ていくことができるような状況になっているというのなかなか工夫されていると思いました。先ほどから出ている調理の過程、作品づくりの過程は大変わかりやすく、見やすくなっています、本当に写真も鮮明できれいで、見ているだけでできる気になるような感じがしました。

それから「チャレンジコーナー」というのを設けてまして、もっとやりたい、作りたいたいというときに実際的に調理をしてみて、こんな作品が

できるとか、家族にプレゼントしてみようみたいな作品例も出ていまして、とても使いやすい教科書ではないかと思いました。

井上委員長

私も皆さんとほぼ同じで、学習に系統性を持たせる流れがあるということと、基礎、基本的な知識や技能というものが科学的に自然から修得されるように配慮されていると感じまして、開隆堂かなと思っております。

いろいろな視点からご意見をいただきましたけれども、家庭については開隆堂ということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長

ご異議がありませんので、「家庭」は「開隆堂」にいたします。

×××

続いて、「保健」についてです。発行業者は5者。東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいです。意見をお願いいたします。

赤見委員

保健は、体育授業の少ない時間の中でされるようですが、いろいろ習うことが多くて大変だと見て思いました。2つの教科書に関して説明させていただきますが、大日本図書は理科の教科書と同様に薄くてコンパクトでありながら、見開き2ページで一単元が学べるよう工夫されています。けがの防止の観点では、自転車の安全点検が取り上げられているのが特徴で、なかなかユニークだと思いました。また、成長段階の説明では穏やかなイラストが用いられていまして、好感が持てました。また、人の関連では「たばこの害と健康」の単元で、神奈川県受動喫煙防止条例のロゴマークが紹介されていて、禁煙先進都市藤沢に適しているのかなと思いました。

また、学研教育みらいは大きいA版サイズで、写真や挿絵が多くて非常にわかりやすい。学習のまとめが単元末にあって、学習の振り返りに役立つのかなと思いました。

関野委員

保健は、学研教育みらいの教科書がいいと思います。特に体の変化に関する記載の部分では、他の多くの教科書は体の変化を水着の写真とか具体的なイラストを交えて結構掲載しているところが多いんですけども、興味本位に受け取る児童も多いと思いますし、デリケートに扱う必要があるかなと思ってます。その意味では学研教育みらいの教科書は、内容は正しく伝えつつも写真は体操服、イラストはシルエットにするなど、ある程度配慮されているだろうと感じます。私個人の意見としては、3～4年生の子どもたちにあまり過度な情報をわざわざ与える必要はないと考えていますので、学研教育みらいの表現が一番適当なのではないか思い、学研教育みらいの教科書がいいと思います。

阪井委員

学研教育みらいの教科書について、お話をさせていただきたいと思います。

非常にA版の大きなゆとりのあるページづくりの教科書です。記入する欄もわりと広く取ってあり、書き込みやすい教科書になっていると思いました。單元ごとにもっと知りたい、調べたい、学習のまとめ、この学習のまとめの中では、振り返って理解の度合いを「十分、だいたい、もう少し」というようなところでチェックをし、そのチェックをすることから自分自身の課題を見つけて記入をし、今までの学びを活かして、自分で考えて明日につなげていくにはどうしたらいいのか、生活に生かしていくためにはどうしたらいいのか、どんな学びが必要なのかということが明確になるように、系統立てて理解を深めていける教科書だと思いました。関野委員がおっしゃった身体の成長というところが4年生のところに出てきますけれども、その身体の成長に対しても身体が変化したことは何なのかということから、成長するとはどういうことなのか、どういうふうに変化していくのか、外見的ではなく、体の中はどのように変化しているのかということから、健康に育つことに必要なのは食事や運動や休養であること。食事だったらバランスよく食べること、運動なら運動を続けること、休養するにはなぜ休養が必要なのかというようなことが具体的に自分で考え、自分の生活に結びつけていけるような編集になっているところが、子どもの理解を深める良い教科書ではないかと思いました。

吉田委員

保健ですけれども、2者についてお話をさせていただきます。1者目は光文書院です。光文書院の教科書にもテーマが書かれていまして、3～4年で「健康ってすばらしい」、5～6年で「見つめよう健康」といった言葉で、端的に目標を伝えているところがいいと思います。それから学習のパターンが「あてはめよう、見つけよう、伝えよう」というふうに3つになっていまして、それを実際に、知識を活用できるような工夫がしてあるように思いました。それからイラストや写真が見やすく、子どもたちの興味、関心を引くようなものが多いのではないかと思います。視覚による理解という点では写真も効果的に使われていると感じました。

それから学研教育みらいは、1時間でやることが見開きで構成されていまして、教員としては非常に使い勝手がいいのではないかと思いますし、ここで学ぶことというのがはっきりと示されていますので、1時間の流れが明確になると思います。それから「チェックしよう」、「考えてみよう」、「やってみよう」「ともだちと」「かがくの日」「かつよう」というふうにいるいろいろなコーナーがありまして、そこでまとめや振り返りが大変しやすい。そういう意味では、自分自身の健康生活を振り返ることがしやすいのではないかと思います。学習したことが実際に自分の生活の中で生かされていく、そういった学びができるのではないかと思います。「もっと知り

たい、調べたい」というコーナーにおいては、学んだことを実践へ導くといった、先ほどから言っています、知識を実生活に自分のものとして学んだものを活用していく、そういった力が効果的につけられるのではないかと思います。

それから言語活動も多く取り入れられておりまして、常に話し合いによって豊富な資料と合わせて子どもたちがどのように考えていくかということから考えて、学研教育みらいがいいと思いました。

井上委員長 東京書籍の内容を見ましたら、児童が主体的に取り組めるのかなというところ、特にイラストなどで理解しやすいというところを感じておりました。そういう中でも学研教育みらいについては学習を振り返ったり、次につなげることを考える活動がよいというようなこともありましたので、学研教育みらい、あるいは東京書籍の学習の課題をとらえる活動がとてもよいなと思っております。

井上委員長 委員の皆さんからは大日本図書、東京書籍、学研教育みらいとなっていますけれども、意見を取りまとめますと、保健は学研教育みらいということでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 ご異議がありませんので、「保健」は「学研教育みらい」にいたします。
×××

これで 11 種目すべての教科用図書について決定いたしました。

議案第 13 号平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択については、ただいま決定しましたように、国語は「光村図書出版」、書写は「光村図書出版」、社会は「教育出版」、地図は「東京書籍」、算数は「東京書籍」、理科は「大日本図書」、生活は「東京書籍」、音楽は「教育芸術社」、図画工作は「開隆堂」、家庭は「開隆堂」、保健は「学研教育みらい」ということです。これを採択することでもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 それでは、議案第 13 号平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択については、ただいま申し上げた 11 種目の教科用図書を採択いたします。

÷÷÷

井上委員長 次に、議案第 14 号平成 27 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択についてを上程いたします。事務局の説明を求めます。

小木曾教育指導課長 議案第 14 号平成 27 年度使用藤沢市立特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の採択について、ご説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 23 条第 6 号義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 14 条及び同法施行令第 14 条第 1 項並びに学校教育法附則第 9 条の規定により、採択する必要によるものです。無償措置の対象となる特別支援学校における小・中学部及び小学校若しくは中学校の特別支援学級にあっては、小・中学校用教科用図書、特別支援学校用教科書目録に記載されている教科書、学校教育法附則第 9 条の規定による一般図書が給付の対象となります。また、無償措置の対象外の高等部においても、この附則第 9 条の規定による一般図書と高等学校用教科書目録に記載されている教科書を使用することになります。

学校教育法附則第 9 条の規定による一般図書につきましては、文部科学省初等中等教育局教科書課長通知を参考にして、児童生徒の障がいの種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容であることや、系統的に編集されていること、使用上適切な体裁であること、高額過ぎない価格であることなどの事項を留意して採択すること、並びに採択した図書が完全に供給される見込みがあることなどに留意して審議することとしております。

以上の点を踏まえ、第 3 回藤沢市教科用図書採択審議委員会におきまして、審議がなされました。教科用図書採択審議委員会から答申された内容につきましては、先ほど説明いたしました、平成 27 年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果について（答申）とあるものでございますので、よろしく願いいたします。

それでは、議案書を読み上げます。（議案書朗読）

井上委員長

事務局の説明が終わりました。ご意見、ご質問はありますか。

特にないようですので、協議に入ります。

協議方法についてですが、答申にもありましたが、特別支援学校や特別支援学級で使われる教科書は、児童生徒の発達段階を踏まえて、幅広く選ぶことが必要であると考えます。審議委員会でも一人ひとりの児童生徒にふさわしい教科書として挙げられてきたという意見がありました。そこで、ここでの協議は、平成 27 年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめの中から「新」と書かれた、今回新たに希望があった図書 21 冊と、□印の書かれた複数の種目で希望のあった図書 11 冊について、総括的にご意見をいただくという形で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

井上委員長

それでは、「新」または「□」のある種目、ナンバー 1 「国語・書写」、ナンバー 2 「算数・数学」、ナンバー 3 「生活・地図・社会」、ナンバー 4

「生活・理科」、ナンバー5「音楽・器楽」、ナンバー6「図工・美術」、ナンバー7「家庭・職業家庭」について、ご意見をお願いいたします。

吉田委員

藤沢市の教育の根幹にあるものは、障がいのある、なしにかかわらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行うことにあります。学校教育の基本理念を示しました「学校教育ふじさわビジョン」においても、ともに育つ場をつくるということを明記している状況です。各学校の特別支援学級及び白浜養護学校に在籍する児童生徒について、その成長を見守り、一人ひとりの学習課題を把握し、その子にとって最もふさわしいと担当の先生方が選んだ教科書は、すべて採択すべきであると考えます。子どもたちのより良い成長のために選択した教科書を各種目の目標に合わせて効果的に使っていただき、子どもたちの学習意欲を喚起し、興味、関心を持って学習できるように、先生方に授業の工夫をするようお願いしたいと思っております。1冊、1冊について細かいことは述べませんが、選択されてこれから子どもたちのために使おうという教科書をぜひ採択したいと思っておりますので、今回、新しく採択の申請のあった一般図書も含めて複数教科にわたるもの、前年度採択され、本年度も教科書としてふさわしいというように調査されたものすべてを採択するしたいと思います。

阪井委員

吉田委員がおっしゃったことと同じように、すべて採択することが大切だと思っておりますが、その中においてもナンバー5の「音楽・器楽」の中で、今回、小学校の通常級でも使われているものが採択されました。ということは、通常級と交流することが多くなっていくこれからの教育の中においては、同じ教科書を使って勉強するということが大事な視点と思っておりますので、今回、通常級が使っている同じ教科書を採択されたのは、とても嬉しいことだと思っております。

関野委員

吉田委員、阪井委員がおっしゃったことと同じで、すべて採択されるのが望ましいと思っております。特別支援学校と特別支援学級の先生方が、一人ひとりの子どもに合わせて一生懸命選んでくれた教科書だろうというふうに思っておりますので、そのことに特に異議を挟むつもりは全くありませんので、すべて採択していただきたいと思っております。

1点だけ気になったのは、国語の中の三省堂の「こどもことば絵じてん」と小学館の「子ども図鑑プレNEO 楽しく遊ぶ学ぶこくご図鑑」の金額がそれぞれ3,800円、2,800円ということで、これまで採択されてきた図書に対して高いのかなと感じています。ただ、これも先生方が一人ひとりの子どものことを考えて選んでいただいた教科書だと思っておりますので、ぜひ有効に活用していただきたいと思っております。

井上委員長

すべて採択ということですが、中には若干高いものもあるから少し

再考をとということのようです。

赤見委員 私も新学期の先生が選んで、生徒にこれが一番ふさわしいのではないかと
いうものは基本的に全部採択ということでもよろしいかと思えます。関野
委員の補足ですけれども、文部科学省初等中等教育教科書課長通知の第2
項にも価格については、あまり高額なものに偏らないことと書いてありま
すが、この本もちろん文部科学省のリストの中に入っている本でしょう
し、あまり高額なものといっても幾らまでとは書いていないので、書いて
いない間は気になさらずにしっかりと活用していただければいいかと思
います。

井上委員長 他にありませんか。なければ、いろいろご意見をいただきましたけれど
も、新規図書、複数種目、希望図書を含めて採択することにしたいと思
いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

井上委員長 それでは、議案第14号平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しく
は中学校の特別支援学級用教科用図書については、ただいまの協議のと
おり、平成27年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支
援学級教科用図書の審議結果にあります、すべての教科書を採択いたします。
÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

井上委員長 次に、議案第15号平成27年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採
択についてを上程いたします。事務局の説明を求めます。

小木曾教育指導課長 議案第15号平成27年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採
択について、ご説明いたします。

この議案を提出しましたのは、地方教育行政の組織及び運営に関する法
律第23条第6号、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律
第14条及び同法施行令第14条第1項の規定により、中学校用教科用図書
については、平成26年度採択のものと同一のものを採択する必要による
ものです。採択する中学校用教科用図書は記載のとおりです。

それでは、議案書を読み上げます。(議案書朗読)

井上委員長 事務局の説明が終わりました。法令により、義務教育教科用図書は、採
択替えを行った時点より、4年間は同じ発行業者のものを採択すること
になっております。したがって、平成27年度に使用する中学校用教科
用図書は、平成26年度採択と同一のものを採択することになります。

それでは、平成27年度使用中学校用教科用図書の採択について、ご意
見・ご質問がありましたらお願いいたします。

井上委員長 特にないようですので、平成27年度使用中学校用教科用図書の採
択については、平成26年度採択と同一のものを採択することに決定いたしま

す。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

井上委員長 以上で、本日予定しました、審議する案件はすべて終了いたしました。
委員の方で前回の定例会から今日までの間で、報告事項のある方はいらっしゃいますか。

井上委員長 それでは、次回の会議の期日を決めたいと思います。8月20日（水）午後7時30分から、傍聴者の定員は20名、場所は森谷産業旭ビル4階 第1会議室において開催ということでいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

井上委員長 それでは、次回の定例会は、8月20日（水）午後7時30分から、傍聴者の定員は20名、場所は森谷産業旭ビル4階 第1会議室において開催いたします。

以上で、本日の会議の日程はすべて終了いたしました。

午後3時57分 閉会